

9.3.



講演会「ミルクキャラメルの物語」を開催しました。

9月3日(土)に森永エンゼル財団の主席研究員・理事の野秋誠治さんをお招きして、ミルクキャラメルについてお話を伺いました。



ミルクキャラメルの歴史

1899(明治39)年に誕生し、初めはバターやミルクが多い味が日本人には合わなかったり、高温多湿な日本の気候では傷みやすかったそうです。森永では、乳製品の割合を減らして、柑橘系の風味を加えるなどの工夫をして、今の味が生まれました。

パッケージの秘密

ポケット用紙サック入りの現在の形になったのは1914(大正3)年。東京の帝国劇場が開館して、ポケットに入れて手軽に持ち運びができるパッケージがあったら良いのではないかという発想から。

その後、同年の東京大正博覧会で大ヒットしたのをきっかけに本格的に販売を始めたそうです。

森永ミルクキャラメルと『この世界の片隅に』

なぜミルクキャラメルなのかと疑問を持った方も多いと思いますが、実はミルクキャラメルは作中にも登場する長い歴史を持つお菓子なのです。「冬の記憶」です。が兄妹へお土産に買うのはミルクキャラメルで、当時から子どもたちのお菓子の定番でした。

森永ミルクキャラメルの昭和10年当時のパッケージは美術館で展示中です。ぜひ本物を美術館でご覧ください。

野秋さん、参加者の皆様、ありがとうございました！

